

ORiNOCO AP-600 の設定手順

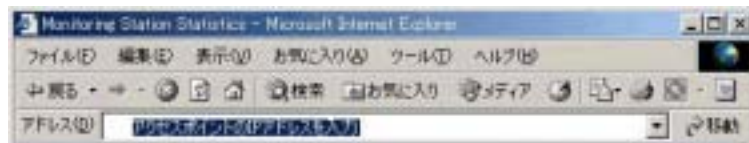
この手順書は、ORiNOCO AP-600 アクセスポイント（以下、アクセスポイント）の設定パラメータを変更するための手順について記したものです。

<準備>

- 設定用の PC とアクセスポイントとの接続はハブを介して接続するか、またはクロスケーブルを使用して直接繋いでください。

<実行>

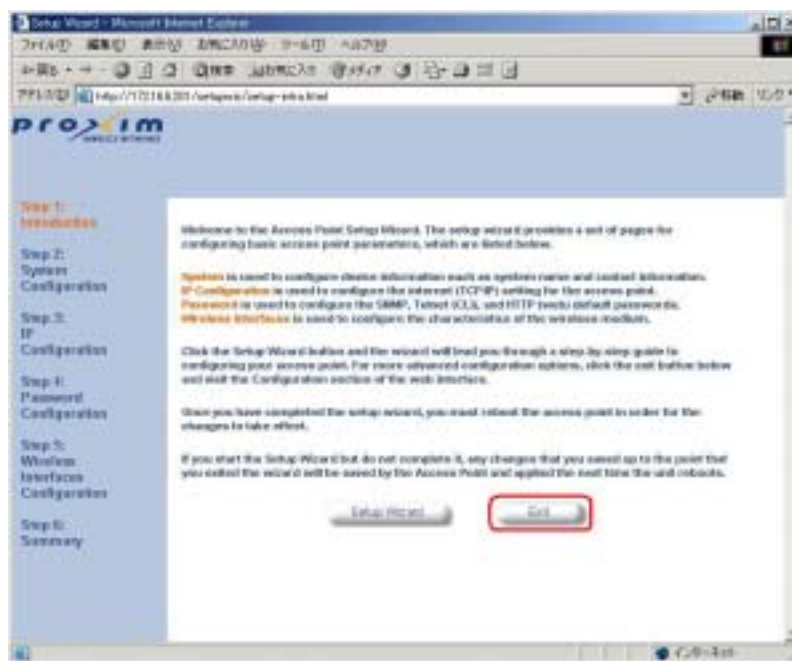
1. 設定用の PC 上で Web ブラウザを起動し、アドレスの入力欄にアクセスポイントに設定されている IP アドレスを入力し【Enter】キーを押します。



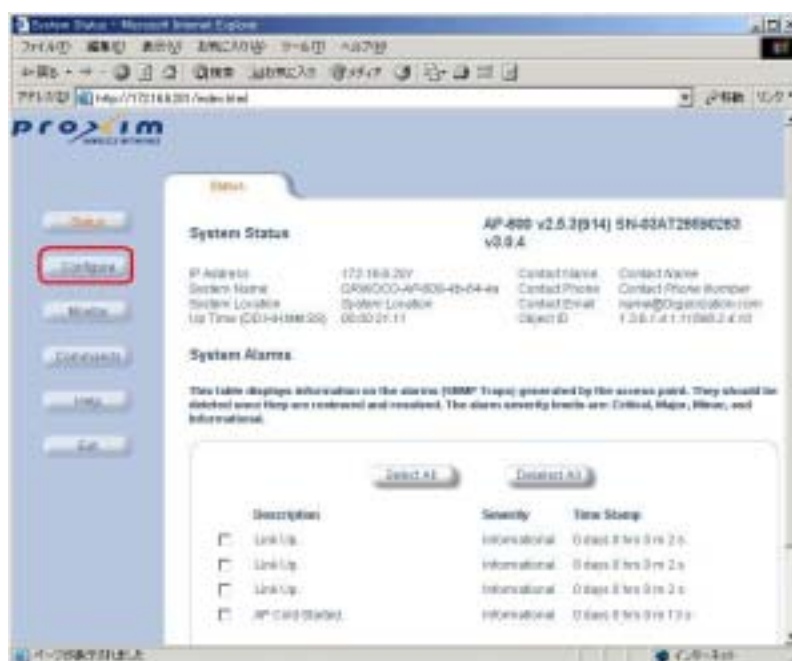
2. アクセスポイントの Login 画面が表示されます。"ユーザー名"は空白のまま、"パスワード"には設定されているパスワード（デフォルトでは "public"）を入力して【OK】をクリックします



3. セットアップウィザード画面が表示されます。（表示されない場合には手順 4 に進んでください）このウィザードからは基本的なパラメータしか設定することが出来ないため、【Exit】ボタンをクリックし、ウィザードを終了します。



4. "Status"画面が表示されます。設定を行うには【Configure】ボタンをクリックします。

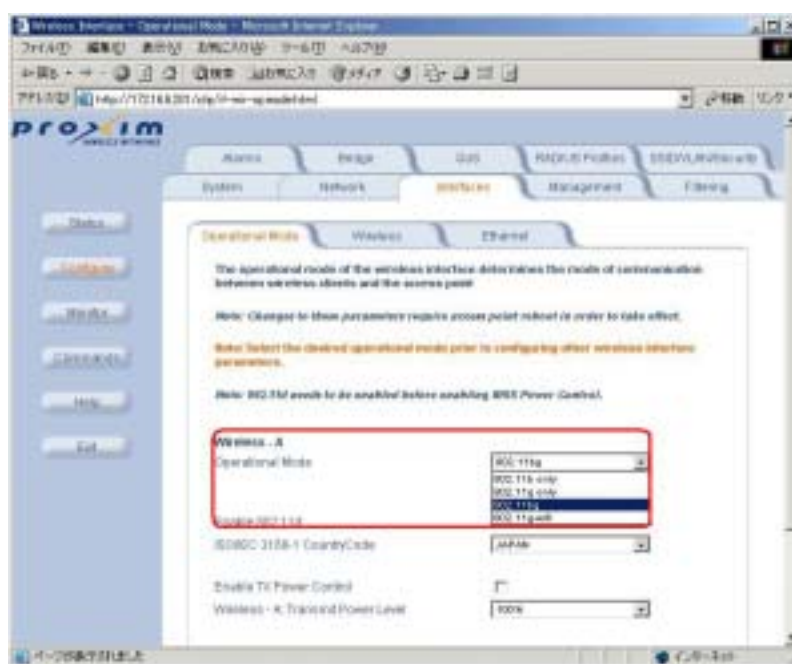


5. パラメータの設定画面が表示されますので、各タブ毎に必要な設定を行います。設定を変更したらタブを切り替える前に必ず【OK】をクリックして下さい。

【802.11b/g インタフェースで使用するモードの設定（AP-600b/g のみ）】

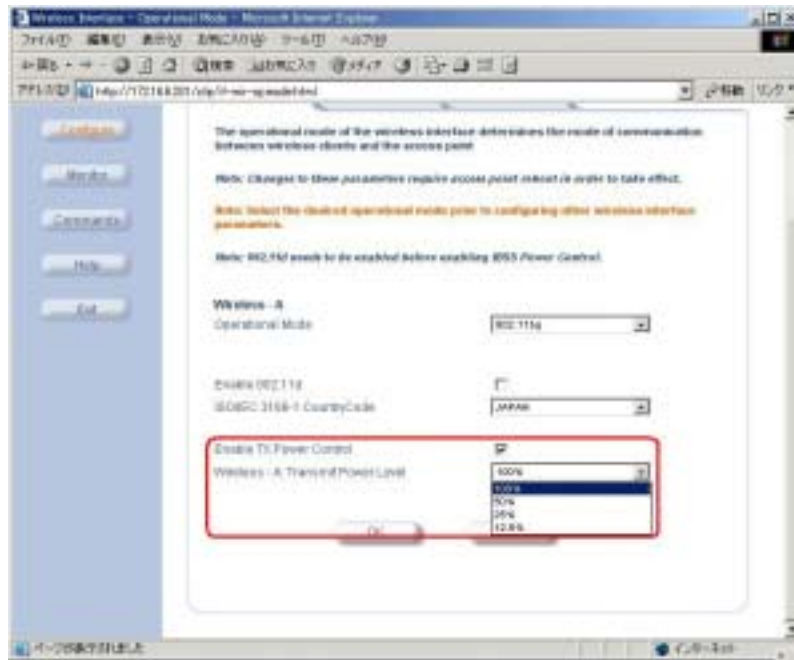
AP-600b/g を使用する場合には、“Interfaces”タブ内の“Operational Mode”タブをクリックし、802.11b/g 無線インタフェースで使用するモードを選択します。選択できるのは以下の4種類です。

- **802.11b Only** クライアントが全て 802.11b を使用している場合に設定します。
- **802.11g Only** クライアントが全て 802.11g を使用している場合に設定します。
- **802.11bg（デフォルト）** クライアントが 802.11b、802.11g で混在して使用している場合に設定します。
- **802.11g-wifi** このモードはテスト用のモードです。



【無線インタフェースの出力値の設定（AP-600a, AP-600b/g のみ）】

“Interfaces”タブ内の“Operational Mode”タブをクリックし、無線インタフェースの出力値を変更する事が出来ます。デフォルトでは 100%（最大値）となっています。出力値を変更する場合には、“Enable TX Power Level”をチェックし、“Wireless- A: Transmit Power Level”から出力値を選択してください。選択できる値は“100%”,“50%”,“25%”,“12.5%”です。



【無線インタフェースの設定】

“Interfaces”タブ内の“Wireless”タブをクリックし、無線インタフェースに関する設定を行います。ここで設定が出来る主なパラメータは以下の通りです。

- **Network Name** アクセスポイントと接続する無線クライアントには同じ Network Name を設定します。デフォルトは“My Wireless Network A”となります。使用可能な値は半角英数字（大文字 / 小文字は区別されます）で最大 32 文字です。
- **周波数チャンネル** 無線インタフェースで使用するチャンネルを設定します。デフォルトは“Auto Channel Select”機能が有効なため、アクセスポイントが自動で設定します。チャンネルを変更する場合には、“Enable Auto Channel Select”パラメータを Disable に変更する必要があります。

【AP-600a のチャンネルを設定する時の注意】

使用できる周波数チャンネル数は“34, 38, 42, 46”の 4 チャンネルとなります。この 4 チャンネルは隣接するチャンネルとの干渉はありません。複数台のアクセスポイントを設定する場合に 4 つのチャンネルを同一環境で使用しても干渉はありません。

【AP-600b, AP-600b/g のチャンネルを設定する

時の注意】

使用できる周波数チャンネル数は 802.11b のみを使用する場合には“1 から 14”、それ以外では“1 から 13”チャンネルの範囲となります。複数のアクセスポイントを設置する場合には、効率的にチャンネルを使用するために、1ch、6ch、11ch、（14ch）を使用することを推奨します。

● Closed System

Closed System”を有効にすると、Network Name をビーコン信号に含めないようにするため、Network Name が"ANY"、または空白の無線クライアントからの接続を拒否する事が出来ます。この機能に関しては設定されることを強く推奨します。

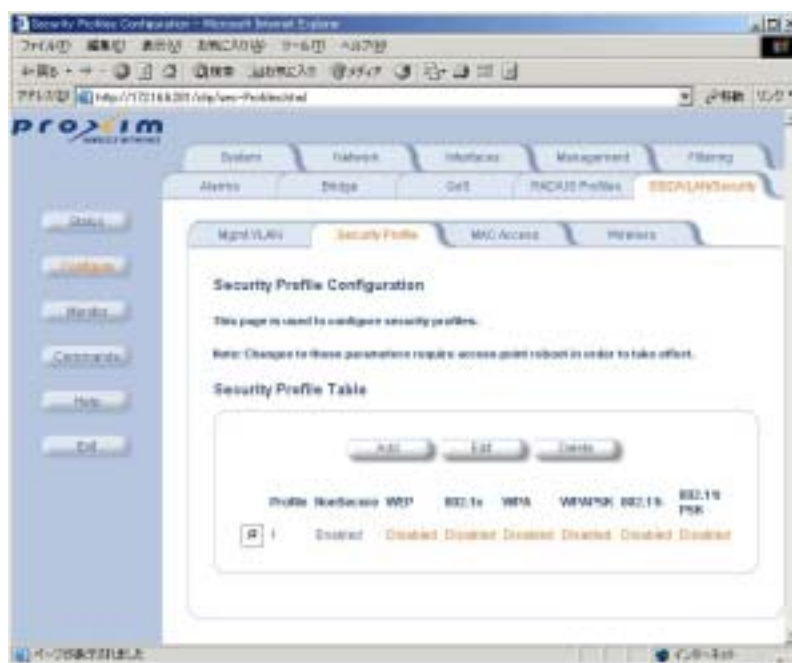


【セキュリティの設定】

“SSID/VLAN/Security”タブをクリックします。

➤ “Security Profile”の設定

“SSID/VLAN/Security”タブ内の“Security Profile”をクリックします。既に1つのプロファイルが作成されていますのでこのプロファイルを選択し、【Edit】ボタンをクリックすることで変更する事が出来ます。プロファイルを追加する場合には【Add】ボタンをクリックします。



使用するセキュリティを以下の7種類から1つ以上選択する事が出来ます。ただし、“Non Secure”を選択した場合には、“WEP”または“802.1x”以外のモードと組み合わせることは出来ません。

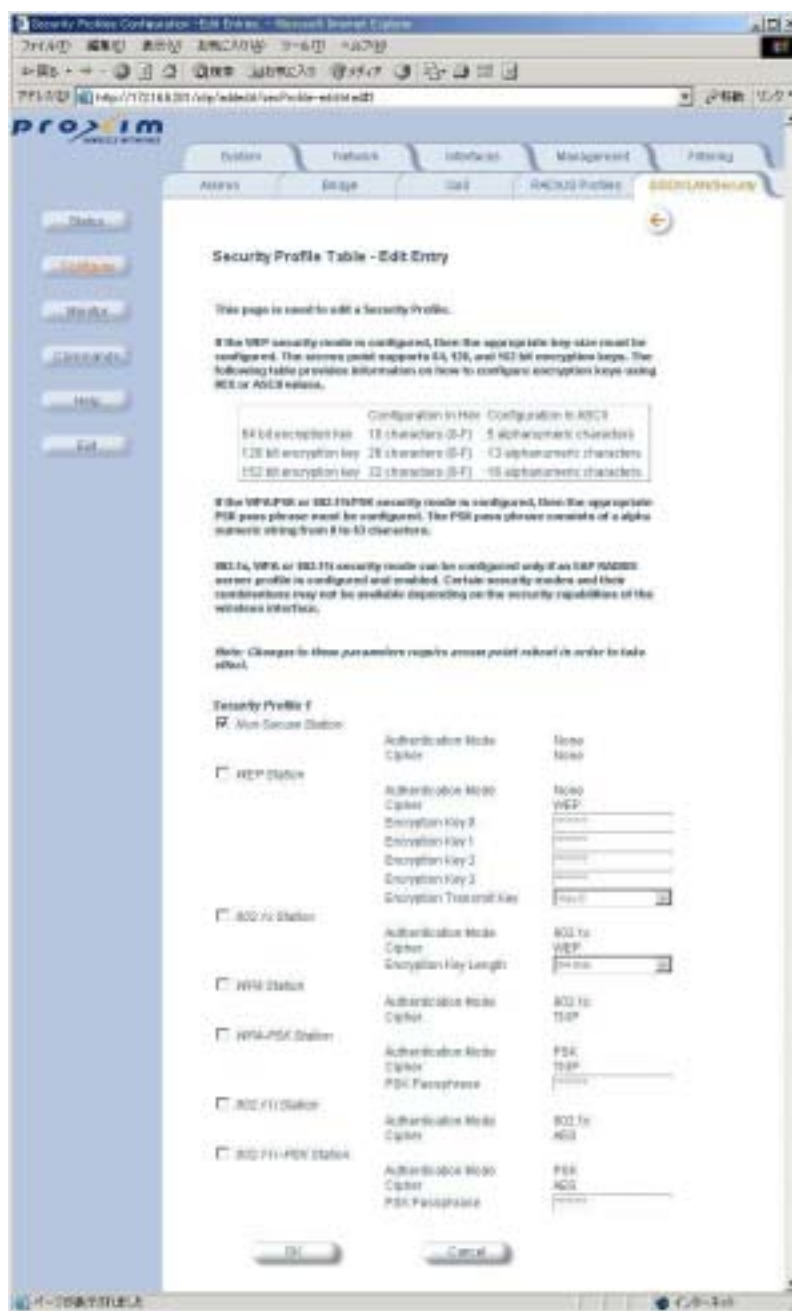
- **Non Secure** 暗号化は行われません。
- **WEP** アクセスポイントとクライアントが同じ暗号キーを使用してデータを暗号化します。使用できるキーの長さは、AP-600bでは“64ビットと128ビット、AP-600a, AP-600b/gは“64ビット、128ビット、152ビット”となります。64ビットでは半角英数字で5文字、または16進数で10桁、128ビットでは半角英数字で13文字、または16進数で26桁、152ビットでは半角英数字で16文字、または16進数で32桁で設定します。
- **802.1x** クライアントの認証に802.1xを使用します。EAP-TLS、EAP-TTLS、PEAPなどの認証とWEPキーを生成しクライアントに配信を行います。使用する場合には、対応したRADIUSサーバが必要になります。
- **WPA** 802.1xと同様にRADIUSサーバを使用してクライアントの認証を行います。暗号鍵を一定時間毎に自動的に更新する「TKIP」(Temporal

Key Integrity Protocol)と呼ばれる暗号化プロトコルを使用しています。使用する場合には、対応した RADIUS サーバが必要になります。
(AP-600b/g のみ使用可能)

- **WPA-PSK** TKIP を使用し、事前共有キー (PSK) による簡易的な認証を行います。TKIP により、ユーザー毎に動的に暗号キーを生成し、配信します。“PSK Pass Phrase”は“8 から 63 文字”を設定します。この値はアクセスポイント、クライアント共に同じ値を設定する必要があります。
(AP-600b/g のみ使用可能)

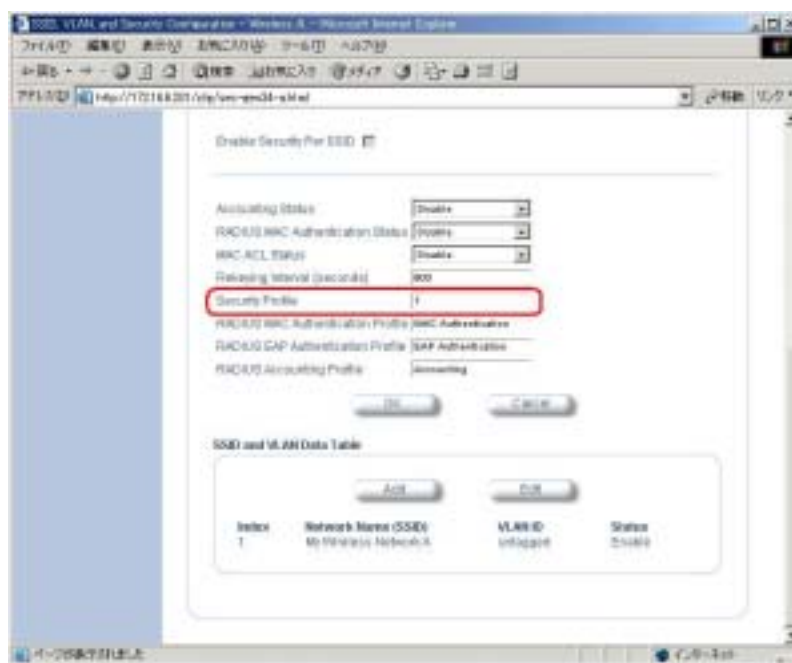
- **802.11i** RADIUS サーバを使用してクライアントの認証を行います。「AES」(Advanced Encryption Standard) に基づいて暗号鍵をユーザー毎にダイナミックに生成して配信します。使用する場合には、対応した RADIUS サーバが必要になります。(AP-600b/g のみ使用可能)

- **802.11i PSK** 「AES」を使用し、事前共有キー (PSK) による簡易的な認証を行います。AES により、ユーザー毎に動的に暗号キーを生成し、配信します。“PSK Pass Phrase”は“8 から 63 文字”を設定します。この値はアクセスポイント、クライアント共に同じ値を設定する必要があります。
(AP-600b/g のみ使用可能)

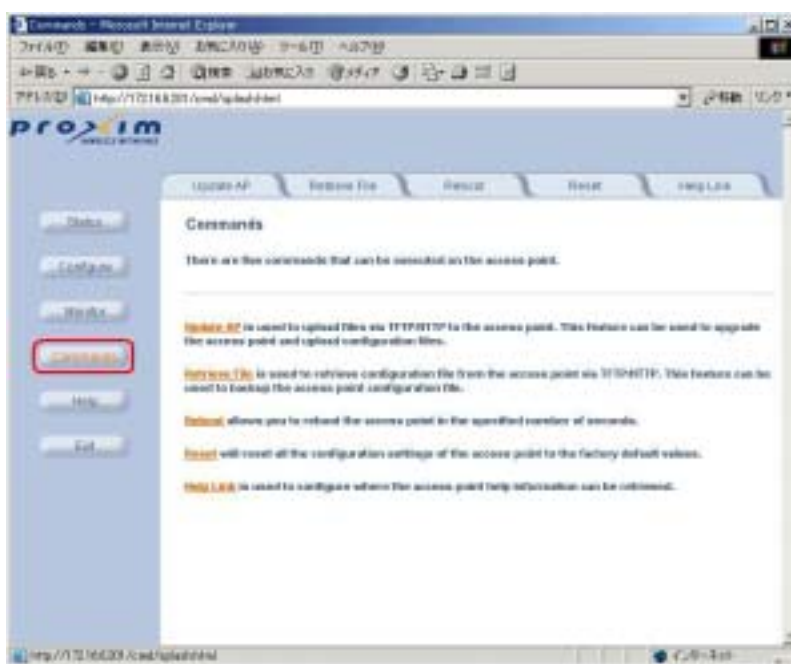


➤ “Security Profile”の指定

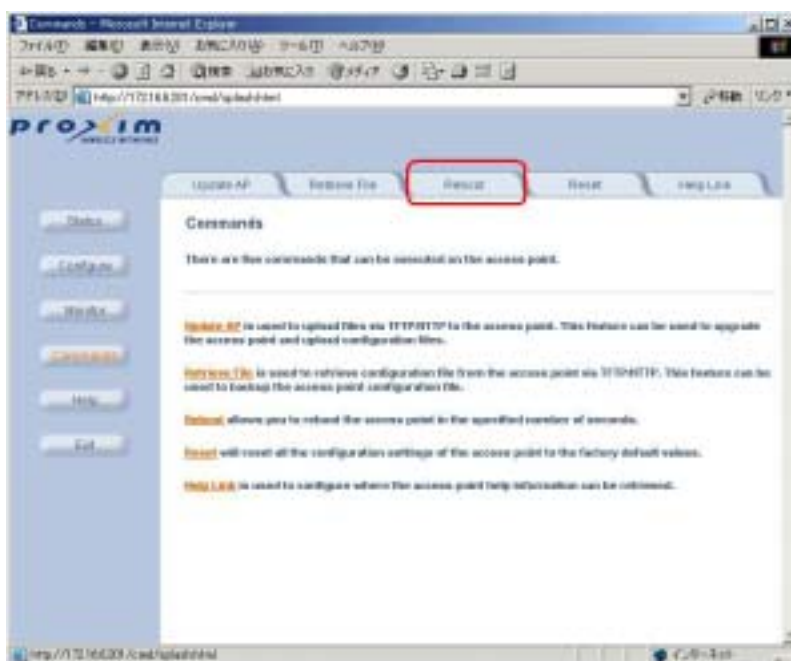
“SSID/VLAN/Security”タブ内の“Wireless”をクリックします。
 “Security Profile”パラメータで、設定した“Security Profile”の番号を指定します。



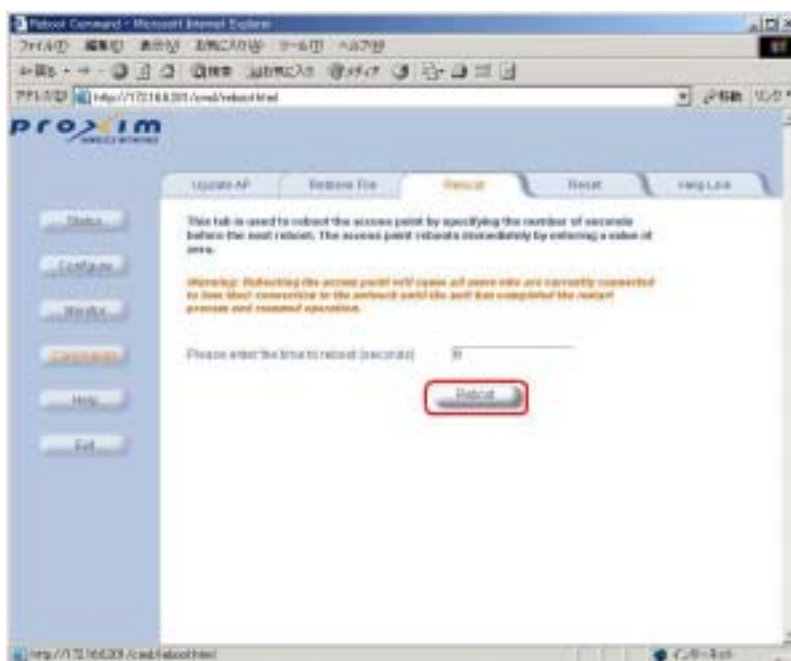
6. 設定が終了したら、【Commands】ボタンをクリックします。



7. 【Reboot】タブをクリックします。



8. 【Reboot】ボタンをクリックし、アクセスポイントを再起動します。再起動後、設定した内容で立ち上がります。



以上で、アクセスポイントの設定変更は終了となります。